

平成19年度 第2回 芦屋市心身障害児適正就学指導委員会 会議録

日 時	平成19年12月14日(金) 13:00~15:00
会 場	北館4階 教育委員会室
出席者	<p>委員長 鈴木 紀元(芦屋市医師会長)</p> <p>副委員長 前川 耕造(芦屋市立岩園小学校長)</p> <p>委員 寺内 嘉一(芦屋市医師会)(精神科医)</p> <p>米田ヒロ子(芦屋市保健福祉部障害福祉課長)</p> <p>松尾 秀作(芦屋市保健福祉部こども課保育所担当課長)</p> <p>堺 執(三田谷治療教育院長)</p> <p>吉川 正勝(ひょうご発達障害者支援センター心理士)</p> <p>前川 和世(芦屋市立浜風幼稚園長)</p> <p>丹下 秀夫(芦屋市立山手中学校教頭)</p> <p>田原 得良(芦屋市立山手小学校教諭)</p> <p>玉暉 潤(芦屋市立打出教育文化センター所長)</p> <p>山上 利美(芦屋市立山手中学校教諭)</p> <p>山下 結美(芦屋市立浜風小学校教諭)</p> <p>事務局 藤原 周三(芦屋市教育長)</p> <p>中尾 滋男(芦屋市教育委員会学校教育部長)</p> <p>伊田 義信(芦屋市教育委員会学校教育課長)</p> <p>北野 章(芦屋市教育委員会学校教育課特別支援教育担当課長補佐)</p> <p>瀬山久美子(芦屋市教育委員会学校教育課幼稚園担当主査)</p> <p>畑中 稔(芦屋市教育委員会特別支援教育センター専任指導相談員)</p>
会議の公表	<p>公開 非公開</p> <p>非公開の理由</p> <p>会議の内容に個人情報が含まれているため</p>
傍聴者数	なし

内 容

1 会議次第

(1) 教育長挨拶・委員長挨拶

(2) 議題

平成19年度入学児童生徒の追跡調査結果について

専門部付託事項調査報告について

(3) 適正就学についての答申

(4) 教育長あいさつ

## 2 提出資料

- (1) 平成 19 年度芦屋市心身障害児適正就学指導委員会審議結果
- (2) 教育上配慮のいる児童生徒の追跡調査結果
- (3) 心身障害児の適正就学に関する調査書

## 3 審議経過

- (1) 追跡調査結果については、昨年度、適正就学指導委員会で審議された児童生徒の現状について、調査報告書をもとに事務局から現状報告を行なった。
- (2) 専門部付託事項調査報告については、専門部員から、平成 20 年度に就学する児童生徒の障がいの状況と、それぞれの望ましい就学先についての提案があった。

### 〔主な質疑内容〕

特別支援学級の指導体制や交流の状況はどうなっているか。また専門性を持った職員が配置されているのか。

(特別支援学級は、1 学級平均 3 名程度で構成されている。交流時間は原則、全指導時間数の半分程度だが、児童生徒の実態によって差はある。担任の大多数は特別支援教育の経験者。県も市も教員の専門性の向上を支援する研修会を毎年、実施している。)

障がいの程度が重度の児童もいるが、こうした児童を受入れる学校の指導体制は十分に整っているのか。

(一人一人の障がいの程度に配慮した指導を行うとともに、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に生活できる環境を整えることが大切である。その実現のためにも学校に対する教育委員会の支援は不可欠である。)

## 4 結論

- (1) 平成 19 年度に特別支援学級に入学した児童生徒は、全員、現在の学級に適応しており、今後の追跡調査の必要はない。
- (2) 答申の内容は、専門部の原案どおりとするが、特に障がいの程度が重度の児童の就学にあたっては、別途、教育委員会からの条件整備等の内容を含んだ付帯意見を加える。

## 5 閉会